

事例番号:340161

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第四部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 23 週 5 日 - 切迫早産のため当該分娩機関へ入院

妊娠 23 週 6 日 - 子宮口 2.5cm 開大、胎胞脱出のため、B 医療機関へ母体搬送  
され入院

#### 3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

#### 4) 分娩経過

妊娠 28 週 2 日

14:00 妊娠 28 週のため当該分娩機関へ転院となり母体搬送され入院

妊娠 28 週 3 日

6:00 陣痛開始

11:53 - 胎児心拍数陣痛図で娩出直前に遷延一過性徐脈を認める

13:08 経膈分娩、前方前頭位

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:28 週 3 日

(2) 出生時体重:1200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.34、BE -0.2mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 5 点、生後 5 分 6 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 早産、低出生体重児、呼吸窮迫症候群

生後1日 抜管直後、陥没呼吸著明、心拍数40回/分台、経皮的動脈血酸素飽和度20%台まで下降などの状態を認め、アドレナリン注射液投与および胸骨圧迫を実施

(7) 頭部画像所見:

生後83日 頭部MRIで脳室周囲白質軟化症の所見を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

### <B 医療機関>

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医2名、小児科医1名

看護スタッフ: 助産師2名、看護師2名

### <当該分娩機関>

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医1名、小児科医2名

看護スタッフ: 助産師1名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、児の脳の虚血(血流量の減少)が生じたことにより脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことである。

(2) 児の脳の虚血(血流量の減少)の原因は生後1日の抜管直後に生じた急激な呼吸循環不全の可能性もある。また、出生前のどこかで臍帯圧迫による臍帯血流障害が生じた可能性も否定できない。

(3) 早産期の児の脳血管の特徴および大脳白質の脆弱性がPVL発症の背景因子であると考えられる。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)

### 1) 妊娠経過

(1) 妊娠22週3日までの外来管理は一般的である。

- (2) 当該分娩機関において、妊娠 23 週 5 日に切迫早産の診断で入院としたこと、および入院中の管理(超音波断層法、ノンストレステスト実施、子宮収縮抑制薬投与、ベクタメゾリン酸エステルナトリウム注射液投与等)は、いずれも一般的である。
- (3) B 医療機関における、妊娠 23 週 6 日から妊娠 28 週 2 日までの入院中の管理(腔鏡診、子宮収縮抑制薬投与、ノンストレステスト実施、超音波断層法、血液検査等)は一般的である。

## 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 28 週 3 日 7 時 54 分に出血を認め、診察後から分娩監視装置を装着し経過をみたことは一般的である。
- (2) 妊娠 28 週 3 日 12 時に子宮口開大 9cm となり分娩不可避と判断して子宮収縮抑制薬投与を中止し経膣分娩としたことは一般的である。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

## 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) B 医療機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) B 医療機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

### 2) B 医療機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

#### (1) B 医療分娩機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

ア. 事例検討を行うことが望まれる。

【解説】 児の予後において重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが

重要である。

イ. 家族からの意見が多くあるため、医療スタッフは妊産婦や家族と十分にコミュニケーションをとるように努力することが望まれる。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

早産児のPVL発症の病態生理、予防に関して更なる研究の推進が望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。